CLUBMAN RACE

2021 SUZUKA CLUB MAN RACE Round 3

2021 鈴鹿クラブマンレース Round 3 開催報告書

■開催概要

●シリーズ名称 ： 2021 鈴鹿クラブマンレースRound 3
●主催 ： 京都レーシングハイブリッドクラブ（KRHC）、鈴鹿モータースポーツクラブ（SMSC）
●協力 ： OCCK、チーム淀、ARCN、ARC、AASC
●競技 ： JAF公認・準国内格式　公認番号2021-3002
●会場 ： 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース（5.807km）
●開催レース ： 総参加台数／145台
スーパーFJ／24台
クラブマンスポーツ／23台
CS2／8台
FFチャレンジ／21台
Vitz／26台
●併催レース ： TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2021
西日本シリーズ第2戦　Yaris／43台
●開催日 ： 2021年6月19日（土）、20日（日）
●天候／路面 ： 19日（土）雨/レイン　20日（日）晴れ／ドライ

★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2021/clubman/

■次回レース開催概要

●シリーズ名称： 2021 鈴鹿クラブマンレースRound 4
●開催日 ： 2021年7月24日（土）、25日（日）
●主催 ： ARCN、SMSC
●会場 ： 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース（5.807km）
●開催クラス ： スーパーFJ、クラブマンスポーツ、CS2

初めてフルコースで単独開催されたCS2クラス。これまで混走が多かっただけに、新たな駆け引きが見られた

2レース制のスーパーFJ、鈴鹿初開催のYaris cup!
少しずつ時代に合わせ、クラブマンレースも進化。

6月19日（土）、20日（日）の両日にわたって行われた「鈴鹿クラブマンレースRound3」。今シーズンは史上初、全レースの舞台がフルコースということも話題を集めています。

Round3では、スーパーFJクラスが2レース制。1レース目のリザルト上位6台に対して、リバースグリッドを採用して2レース目が行われました。そして、これまで混走での開催が多かったCS2クラスが初となる単独でのフルコース開催。全8台のマシンが出走して、いつもと異なる景色で戦いました。

この日、鈴鹿サーキット初開催となったのが「Yaris Cup」。21年間続いた「Netz Cup Vitz Race」に変わる新たなワンメイクレースであり、鈴鹿では西日本シリーズ第2戦として実施されました。開幕戦は東日本シリーズ、西日本シリーズを同時開催ということで91台が参戦。鈴鹿にも43台がエントリーを果たし、カラフルなカラーリングのヤリスが集いました。

さて、19日（土）に予定していた公式予選ですがスーパーFJ、Yaris、Vitz、クラブマンスポーツの4つは降雨のため順延。そのため20日（日）の8時よりスーパーFJを先頭に4つの公式予選を実施しました。イレギュラーな進行となったものの、大きなトラブルはなくレースは進行。前日の雨が嘘のようにからっと晴れ渡った晴天のもと、4つの公式予選、7つの決勝レースを消化しました。

Yaris cupが鈴鹿サーキットで初開催。38台が決勝レースのグリッドに並んだ光景は壮観だった

■CS2 Class

レースはポールポジションのいむらせいじがホールショットをゲット。順当にスタートを決めると、金久憲司、東督也、伊藤豊の順でいむらを追う展開になる。やがて、いむら、金久、東の3台が先頭集団を形成する。3番手以降はトップの3台にやや遅れる形となり、松本吉章、吉村一悟が走行している。レース5周目に差し掛かる頃、いむらと金久の間には1秒以上の差が生まれる。中盤から終盤にかけても上位陣に大きなバトルが見られないなか、いむらはそのままトップチェッカーで勝利。2位は金久、3位は東となった。

ポールポジションを獲得した＃21いむらせいじ。2位の金久憲司に4秒802もの大差をつけた

表彰台に立ったいむらせいじ、金久憲司、東督也の3人。出走した全8台のマシンがすべて完走してレースを終えた

■FFチャレンジ Class

ポールポジションの古川一弘が好スタートを決める。スタート直後、2台のマシンのクラッシュが発生するが上位陣に大きな混乱はない。古川を神原聖一、住直哉、林陽介が追う。すると神原がトラブルか順位を下げると、住が2番手に浮上、3番手に開勇紀がつける。亀田清志と貴島康博の4番手争いが激しくなると、レースは残り3周へ。一時は約2秒あった古川との差を、住は残り2周で0.6秒にまで縮める猛チャージ。古川と住はテールtoノーズでファイナルラップへ向かうと、住はついに古川をオーバーテイク。逆転劇を演じた住が勝利。2位は古川、3位となった開の大健闘も光った。

3番グリッドスタートの＃33住直哉。ファイナルラップで古川一弘をオーバーテイクする逆転劇で勝利した

住直哉、古川一弘、開勇紀の3人。トップ3の間に大きな差はなく、最終盤まで見応えあるレースになった

■スーパーFJ class Race 1

岡本大地、佐藤巧望、上野大哲、居附明利がグリッド上位に並んだ。レースはポールポジションの岡本がホールショットを奪う好発進。岡本、佐藤、上野の順でオープニングラップを終える。レース7周目で2番手を走る上野、そしてトップの岡本との差が0.527秒まで詰まってくる。岡本、上野は8周目でテールtoノーズへ。トップ2から離れて佐藤が3番手を単独で走る。すると、ファイナルラップで上野は岡本をパスしてトップに躍り出る。レースはそのまま上野が逆転勝利。昨年から負け知らずだった岡本に、上野が土をつける結果となった。

勝利した＃38上野大哲は3番グリッドスタート。終盤で岡本大地との距離を縮め、ファイナルラップで鮮やかに逆転した

優勝した上野大哲、2位の岡本大地、3位の佐藤巧望。逆転負けを喫した岡本だが、表彰台では上野の勝利を祝福していた

■Yaris Class

神谷裕幸がポールポジションを獲得。2番グリッド以降は大島和也、森口優樹、木村建登らが名を連ねた。レースは神谷がホールショットをゲット。大島、森口とオーダー通りで開幕する。大島は2周目に入る頃、神谷をパスするが、すぐさま神谷がトップへ返り咲く。3番手の森口は単独走行になり、上位の2台が抜けだし始める。森口と木村の3番手争いが繰り広げられると、5周目で大島は神谷をオーバーテイクする。ファイナルラップへ入る頃、トップを走る大島と2番手の神谷の差は大きい。レースはそのまま大島がトップチェッカーで勝利して、今シーズン2連勝を果たした。

＃99大島和也がトップチェッカーを受けた。富士スピードウェイでの開幕戦に続いて、西日本シリーズ第2戦の鈴鹿でも勝利してみせた

勝利した大島和也、2位の神谷裕幸、3位の森口優樹。記念すべき鈴鹿初開催となったヤリスカップで表彰台に立った

■Vitz Class

ポールポジションを獲得したのは三谷明正。2番グリッドに大崎達也、そして大岩拓矢、井上功、鯉江保秀の順に並ぶ。三谷が好スタートを決めると、大崎、井上がこれに続く。レース4周目で3番手を争い、井上と鯉江がバトル。さらに白井博と白井涼が親子バトルで5番手を争う。トップの三谷は危なげない走りで、2番手の大崎を寄せつけない。3番手の争いは鯉江がリード、井上の前を走る。レースはファイナルラップに入り、三谷がポールtoウィン。大崎が2位。鯉江、井上、白井涼が三つ巴で3番手を争ったが、鯉江が3位表彰台を確保してみせた。

＃3 三谷明正が見事なポールtoウィン。2番手を走る大崎達也も懸命に追ったが、三谷の走りが安定していた

勝利した三谷明正、2位の大崎達也、3位の鯉江保秀。鯉江は井上功との3番手争いを制して表彰台を獲得した

■クラブマンスポーツ class

前回レースウィナーの大八木龍一郎がポールポジションからスタート。大八木が好スタートを決めると3番グリッドの中里紀夫、関正俊、上村雅一らが追う。中里は早くも大八木をパスしてトップでオープニングラップを終える。3番手を争う関、上村が2周目で接触を喫してしまう。レース中盤で大八木は再び、中里からトップの座を奪う。中里は大八木の連勝を止めるべく猛追して見せるが、バトルにまで至らない。レースはそのまま大八木が逃げ切って勝利。大八木、中里、関の順でチェッカーを受けた。上村とのバトルを制した関の走りも印象的だった。

昨年のシリーズチャンピオンである＃1大八木龍一郎（右）。一時的に2番手になったが、終わってみればその強さをより印象付けた

表彰台に立った大八木龍一郎、中里紀夫、関正俊。トップ、3番手でそれぞれバトルが見られ、白熱したレースになった

■スーパーFJ class Race 2

午前中のRace1の結果を踏まえ、リバースグリッドを採用。森山冬星がポールポジションからスタートした。森山がホールショットをゲットすると、高木悠帆が続く。すると、5番グリッドスタートの岡本大地が序盤からアグレッシブだ。岡本は高木を早々にパスして2番手になると、3周目で森山もオーバーテイクしてトップに立つ。佐藤巧望も徐々に順位を上げてくると2番手へ。だが、トップの岡本と佐藤との差は大きい。終盤の11周目で4番手を走る居附明利が3番手の森山をパス。レースは岡本、佐藤、居附の順でチェッカーを受けることになった。

リバースグリッドが採用され、5番グリッドスタートだった＃8岡本大地。それでも3周目でトップに立ち逃げ切った

Race1で2位だった岡本大地は、その悔しさをRace2で晴らして見せた。2位は佐藤巧望、3位の居附明利は逆転で3位となった

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光ったドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

CS2クラスでポールtoウィンを決めた

いむら せいじ 選手（オートルック 16C）

ポールポジションからスタートした、いむらせいじ。一度もトップを譲らない安定した走りを披露した

Q：この日のCS2クラスは混走ではありませんでした。どんな影響がありましたか。
「ポールポジションを獲得すれば当然、前には誰もいませんから。シンプルな分、自分としてはやりやすかったです」

Q：CS2で優勝するのは、昨年のクラブマンレース第5戦以来です。
「はい。ただ、優勝したその時は西コースでした。フルコースは今年2月の第1戦、クラブマンスポーツで走っていて2位。今回は練習走行から調子が良かったです」

Q：ポールtoウィンで完勝に見えました。
「予選はかなりアグレッシブに攻めたんです。決勝がドライコンディションで大きなアクシデントがなければ、このまま逃げ切れるだろうと考えていました」

Q：次戦への抱負を聞かせてください。
「7月の第4戦は、どのクラスを走るかをまだ決めていないんです。しっかり結果を残せるように、どのレース、クラスで走るかを考えていきます」